

## 第2号議案 2016年度事業計画および収支予算案

### I. 2016（平成28）年度事業計画

#### 1. 定期刊行物および資料の刊行

##### (1) 定期刊行物

日本土壌肥料学雑誌（第87巻第2号～第6号および第88巻第1号の計6冊、A4判、計660頁）、SOIL SCIENCE AND PLANT NUTRITION（Vol.62, No.2～No.6, Vol.63, No.1の計6冊、A4判、計708～840pp）および2016年度佐賀大会に際して日本土壌肥料学会講演要旨集（第62集、A4判、300頁）を刊行する。

##### (2) その他の刊行物

学会編シンポジウムシリーズとして、「土壌と界面電気現象～基礎から応用まで～」を博友社より刊行する。

#### 2. 講演会および研究会等の開催、支援

##### (1) 「土と肥料」の講演会

2016年4月4日、総会終了後に、東京大学山上会館において「土と肥料」の講演会を開催する。テーマを「東日本大震災被災地の農業再生を支える対策技術研究の貢献と課題—5年後の現状認識—」とし、講演者と演題は伊藤豊彰氏「津波被災地の農業再生に向けた対策技術研究の貢献と課題」および信濃卓郎氏「原発事故被災地の農業再生に向けた対策技術研究の貢献と課題」である。なお、本講演会は日本学術会議の後援を得て実施する。

##### (2) 2016年度年次大会

2016年9月20日（火）～22日（木）、佐賀大学本庄キャンパスおよび佐賀市文化会館において年次大会を開催する。同期間中、一般講演、ポスターセッション、シンポジウムは20日（火）から22日（木）、学会賞等授賞式、受賞記念講演、懇親会は21日（水）に行う。

シンポジウムのテーマについては、京都大会と同じく会員に公募し、これを基に部門長会議で検討して設定することとしている。

また、学会賞等授賞式では、第61回日本土壌肥料学会賞3名、第21回日本土壌肥料学会技術賞2名、第34回日本土壌肥料学会奨励賞5名、第5回日本土壌肥料学会技術奨励賞2名に各賞を授与するとともに、受賞者の記念講演を行う。また、論文賞1件およびSSPN Award 2件の受賞者については、各賞を授与するとともに、受賞記念ポスターを展示する。

##### ・第61回 日本土壌肥料学会賞受賞者

神山和則：土壌情報システムを利用した農業生態系の評価に関する研究

中西啓仁：イネの鉄栄養研究から出発したカドミウム吸収関連遺伝子群の発見と

#### 低カドミウム米開発への貢献

渡邊 彰：土壤有機物の化学構造と動態に関する研究

・第 21 回 日本土壤肥料学会技術賞

熊谷勝巳：積雪寒冷地水田における良食味米安定生産と環境影響軽減のための土壤管理・施肥技術の開発

藤本順子：園芸作物における栄養障害の早期診断法と障害回避技術の開発

・第 34 回 日本土壤肥料学会奨励賞受賞者

岡崎圭毅：植物代謝産物プロファイリングによる作物栄養及びストレス応答に関する研究

小八重善裕：アーバスキュラー菌根の細胞内動態に関する研究

多胡香奈子：農耕地における農薬・窒素動態に関わる土壤微生物の新機能解明

早川 敦：流域の窒素、リンおよび硫黄の生物地球化学循環に関する研究

南川和則：農耕地における温室効果ガス排出削減技術の国際的な活用に向けた基盤研究

・第 5 回 日本土壤肥料学会技術奨励賞受賞者

笛木伸彦：寒地畑作物に対する環境保全的かつ実践的な窒素施肥技術の開発

本間利光：水稻における水田土壌中のカドミウム・ヒ素の吸収抑制に関する研究

・日本土壤肥料学雑誌論文賞受賞者

八木哲生・松本武彦・大友 量・小林創平・三枝俊哉・岡 紀邦：根釧地域における飼料用トウモロコシのアーバスキュラー菌根菌感染率とリン酸施肥反応に及ぼす前作物の影響

・SSPN Award 受賞者

Kohei Yamashita・Hiroki Honjo・Mizuhiko Nishida・Makoto Kimura・Susumu Asakawa：Estimation of microbial biomass potassium in paddy field soil  
Sumio Itoh・Tetsuya Eguchi・Naoto Kato・Shigeru Takahashi：Radioactive particles in soil, plant, and dust samples after the Fukushima nuclear accident

### (3) 支部大会等

- ・北海道支部：第 19 回日本土壤肥料学会北海道支部野外巡検(8月中旬～下旬 根釧地域)および 2016 年度秋季支部大会・支部総会(11/30 道民活動振興センター「かでの 2・7」)を主催する。また、第 1 回支部評議員会(6月上旬 北海道大学)、第 2 回支部評議員会(11/30 道民活動振興センター「かでの 2・7」)を開催する。
- ・東北支部：東北支部大会、支部役員会および支部総会を開催する(山形県 場所・時期未定)。
- ・関東支部：関東支部栃木大会、支部幹事会および支部総会を開催する(12/3 宇都宮大学峰キャンパス)。
- ・中部支部：第 77 回中部支部総会、第 96 回支部例会を開催する(時期・場所未定)。また、第 158 回支部評議員会(時期・場所未定)、第 159 回支部評議員会(時期・場所未定)を開催する。

- ・関西支部：関西支部講演会並びに関西土壌肥料協議会シンポジウムを開催する（京都府立大学 日時未定）。
- ・九州支部：九州支部春季例会、支部賞選考委員会、2016年度支部常議員会、支部総会並びに若手討論会を開催する（4/27～28 鹿児島大学）。また、日本土壌肥料学会佐賀大会の開催を支援する（9/20～22）。

### 3. 研究の奨励および研究業績の表彰

定款および細則に基づき、第 62 回日本土壌肥料学会賞、第 22 回同技術賞、第 35 回同奨励賞、第 6 回同技術奨励賞、第 6 回同貢献賞、日本土壌肥料学雑誌論文賞、SSPN Award など顕著な業績を挙げた者を表彰する。

### 4. 内外の研究者、技術者、他学会等との連絡および協力

定期刊行物の国内外との交換、国内関連学会等と共催の研究討論会等を行い、学術交流・国際交流の強化を図る。

- ・第 29 回環境工学連合講演会（5/13 日本学術会議講堂）を共催する。
- ・日本地球惑星科学連合 2016 年度連合大会（5/22～26 幕張メッセ）のセッション「流域生態系の水及び物質の輸送と循環—源流域から沿岸域まで—」を協賛する。
- ・日本第四紀学会「考古学，人類学，土壌学とジオパークに関する公開シンポジウム」（6/19 明治大学駿河台校舎）を後援する。
- ・第 26 回環境工学総合シンポジウム（6/29～7/1 金沢市）を協賛する。
- ・第 53 回アイソトープ・放射線研究発表会（7/6～8 東京大学弥生講堂）を共催する。
- ・ポスト国際土壌年巡回展示「土ってなんだろう？」（7/10～31 飯能市ほか）を共催する。
- ・施設園芸・植物工場展 2016(GPEC 7/26～29 東京ビッグサイト)を協賛する。
- ・日本農芸化学会関東支部主催の「バイオサイエンス・スクール」（8 月日本大学）を共催する。
- ・第 17 回国際土壌動物学会議（8/22～26 奈良市）を協賛する。
- ・第 18 回国際腐植物質学会国際会議（9/11～16 金沢市）を共催する。
- ・第 60 回粘土科学討論会（9/15～17 福岡市）を共催する。
- ・IUSS 中間会議（11/19～25 ブラジル・リオデジャネイロ）に代表者を派遣する。

### 5. 本学会の委員会等活動

- ・企画委員会：総会終了後に開催する「土と肥料」の講演会を企画する。また、「国際土壌年 2015」を契機とした取組みを 2015 年度のみで終わらせずに、「土壌の重要性を広くアピールする活動」を企画する。
- ・土壌教育委員会：①佐賀大会において高校生ポスター発表会を実施する（2016.9/20～22）。②学校教育における系統的な土の指導内容を具体化する基礎資料をまとめ、会誌に投稿する。③土壌教育に関するビデオ教材の製作と土壌観察ハンドブックの改訂準備を行う。④教員研修事業および普及事業を実施する（時期・場所 未定）。⑤自然観察の森に土壌断面の説明等が書かれた野外観察板を設置する（場所 未定）。⑥日本農芸化学会関東支部主催で高校生対象に開催される「バイオサイエンス・スクール」に参加する（2016.8 日本大学）。

- ・ 財政基盤整備委員会：収支バランスのとれた学会運営のあり方、大会運営の確立について検討する。
- ・ 広報委員会：①学会ホームページのさらなる改善を図る。②メールマガジン等による情報発信の活性化を図る。③土壌教育委員会とともにエコプロダクツ 2016に出展する（2016.12）。
- ・ 欧文誌あり方委員会（仮称）：欧文誌の今後の方向について検討を開始する。

## 6. その他、本学会の目的達成のための事業

- ・ 日本土壌肥料学会創立記念事業のあり方について検討する。
- ・ 外部からの顕彰および研究助成の推薦依頼に対応する。
- ・ 規程に基づき、若手正会員及び学生会員の海外学会参加渡航費の一部を支援する。
- ・ 各理事担当の年間業務を整理し、円滑化を図る。